医師剣道台湾遠征ツアー

友愛医療センター　整形外科　永山　盛隆

2024年11月29日（金）～12月1日（日）の日程で第一回の沖縄医師剣友会と台湾医師剣友会の交流稽古会が開催されました。

事の始まりは2023年4月の全日本医師剣道新潟大会でお会いした台湾の陳亮仁先生との出会いがきっかけです。琉球文化をこよなく愛し、自ら三線も引きながら琉球民謡が歌える親日（親琉球？）の4段を持つ家庭医学医で、日本語もとても堪能です。(写真1)

遠征メンバーはハートライフ病院名誉院長の奥島憲彦先生とそのご家族（奥様、長女さん)、当院外科後期研修医の清水透先生と奥様、高校後輩の尾本まどかさんと私夫婦の計8名。奥島先生と尾本さんと私は教士7段で、清水先生は3段で背が高く上段で大きな剣道をされています。尾本さんは元JTA職員で今回の旅のマネージメントをして頂きました。彼は国体の県代表として活躍する程の頼れる剣豪で、実は弟さんが自治医大教授とのことでした。

今回の旅行の主旨は観光を基本とし、私達の体力に合わせて無理のない稽古会とさせて頂きました。

今では便利なLINEを使っての国際連携が可能で、オンタイムで連絡をとりながら旅の日程を計画しました。実は尾本さんがホテルや観光をアレンジして下さったお蔭でスムースに旅行の計画が出来ました。奥島先生は奥様と娘さんの3人で約21万円でした。清水夫妻と私達夫婦は2人で約15万円と旅行会社の提示額の半値に近い格安でした。それでも予約してくださった現地の観光内容が素晴らしかったです。

到着した日の台湾桃園国際空港では2人の先生方が迎えに来られていました。台湾の先生は大変親切な方ばかりで、1人目の謝先生が車で防具や荷物をホテルまで運んで下さり、もう1人の江先生が我々と一緒に電車MRTに乗ってホテルまで案内して下さいました。

1日目は夕方から有名な九份に行きました。赤ちょうちんが数多く飾られた幻想的な街並みと夜店を堪能しました。映画「千と千尋の神隠し」のモデルとなった場所です（写真2)。高地なので意外と寒く、懐かしいホットタピオカミルクティなどで体を温めました。街中は急な階段が延々と続き、とても良い下肢のトレーニ

写真1

写真2

写真3

ングとなりました。その後、台北市に戻り夜市に繰り出しました。各自美味しいものを食べ歩きし、海外観光客の多い中楽しい台湾の熱気を感じました（写真3）。

2日目の朝は観光ツアーに参加させてもらい、まずはパワースポットの龍山寺にお参りし、旅の無事を祈りました。また、ウーロン茶の専門店に行き、説明を受け、試飲とお菓子の試食を行いました。昼食は人気店で個人だと2時間待ちと言われる小籠包の名店に行きました。清潔でモダンなお店で、食した小籠包は質、量ともに満足のいくものでお腹一杯になりました（写真4）。その後行った、蒋介石記念堂もスケールの大きな建物でした（写真5）。その後、故宮博物館で素晴らしい宝物を見学。忠烈祠では衛兵たちの一糸乱れぬ行進と交替の儀式をみて感動し（写真6）、本当に充実した観光ができました。

夕方から稽古会の予定があり、剣道交流のメンバー4名、観光メンバー4名に分かれて、稽古会の時間帯は女性達だけでの観光をしてもらいました。

台湾の先生方に迎えられ道場に案内されましたが、医師は11人参加されていました。伝統ある修道館という道場はビルディングの7階にあり、そこは1970年第一回世界大会で準優勝した台湾チームのメンバーだった謝先生（医師）が作られたとのことでした。歴史ある道場で、これまでも日本から多くの剣道団体が稽古会に来られていたとのことでした（写真7）。

医師以外に修道館のメンバーも加わり3分区切りの廻り稽古を10名ほど行いました。とても強い人がいるなと思いましたら、道場の指導者の一人で世界大会の台湾チームの代表にまでなったこともあるそうです。皆さん、元気よく真っすぐな剣道で大変気持ちよく稽古ができました（写真8, 9）。その後、道場をあげて有名な海鮮料理店で歓迎会をして下さいました。道場の林範士8段と指導者の張先生もおられ、台湾の誇るカバラウィスキーを飲みながら皆、ジェスチャー、英語、日本語を総動員して交流

写真4

写真5

写真6

写真7

しました。皆さん大変気さくな方ばかりで、あっという間のひと時を過ごすことができました(写真 10)。

翌朝はのんびりホテルの周辺を散策したあと帰路につきましたが、滞在中はずっと晴天続きで暑くもあり、同日開催のおきなわ NAHA マラソンの天候が気になったくらいです。

来年は台湾の先生方をお招きし、沖縄県での剣道稽古会を行う予定です。「交剣知愛」をテーマに交流を深めたいので、多くの剣道関係者のご参加をお願い申し上げる次第です（写真 11)。

写真 8

写真 9

写真 10

写真 11